

国際的施設

— 日本を代表する施設の整備

日本初の国際会議場-国立京都国際会館

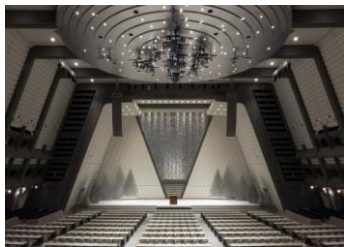
国立京都国際会館は、日本で最初の国立会議施設として1966年に完成しました。近畿地方建設局（現在の近畿地方整備局）が企画・工事監理を手がけた施設で、現在も改修工事や増築工事を近畿地方整備局が担当しています。

▶ 本館の外観

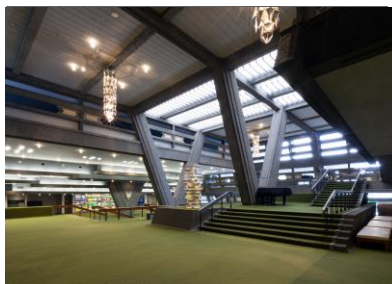


特徴的なデザイン

国立京都国際会館は、台形と逆台形を組み合わせ、合掌造りや社殿と言った日本の伝統様式を想起させる幾何学模様のようなデザインが特徴です。



◀ 本館のメインホール



▲ 力強いラウンジのV字形柱



▲ 壁面が特徴的な1階廊下

ニューホールの整備

2018年
完成!

近年では、2018年に完成した国立京都国際会館ニューホールの企画・工事監理を近畿地方整備局が担当しました。既設のイベントホールと一体利用が可能な多目的ホールで、京都の伝統産業の業を随所に取り入れているのが特徴です。

▶ ニューホールの西側外観



◀ 壁面に清水焼きをあしらったロビー



◀ 景観に馴染むガラス屋根

【ニューホール】

所在地	京都府京都市左京区 岩倉南大鷲町422番
地敷地面積	154,247㎡
建築面積	3,128㎡
延べ床面積	3,905㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造)
階数	2階建